

報道関係各位  
プレスリリース

平成 28 年 10 月 5 日 発信  
千代田区立日比谷図書文化館

## 江戸歴史講座 第 41 回

# 「鎖国」と「開国」の実像を読み解く (全 2 回)

「鎖国」と「開国」の問題は江戸時代を考えるときの大きなテーマです。近年、歴史学研究の進展により、近世日本は本当に「鎖国」していたのかなど、「開国」の実態に迫る研究が多く見られるようになりました。本講座では、最近の研究に基づき、当時の史料を用いながら、「鎖国」と「開国」の実像を読み解きます。

第 1 回目は、幕末以前に成立していた「江戸の海外情報ネットワーク」についてお話しします。「鎖国令」という名前の幕府法令は存在しないといわれていますが、いわゆる「鎖国」下の江戸時代であっても、将軍から庶民まで、人々はそれぞれ機会をとらえて海外情報を収集していました。長崎を中心にした対外関係の窓口である四つの口をとおして、いかにして「江戸の海外情報ネットワーク」が形成されていったのかを明らかにします。

第 2 回目は、海外情報が生活に直結し、誰一人として無縁ではいられなくなる契機となったペリー来航や幕末の情報ネットワークについてお話しします。また、普段目にすることができない、早稲田大学図書館所蔵のペリー来航絵巻、大槻磐溪編『金海奇観』全 2 巻(各巻約 10m)を雄松堂書店による完全復刻版にて実際に展示・解説します。幕末日本人が描いた黒船や外国人物・文物画の精緻さをご覧ください。

### 講師 岩下 哲典 (いわした てつり)

東洋大学文学部史学科・大学院文学研究科史学専攻教授

1962 年長野県「たのめの里」に生まれる。1964 年青山学院大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得。博士(青山学院大学、歴史学)。明海大学ホスピタリティ・ツーリズム学部教授を経て、現在、東洋大学文学部史学科・大学院文学研究科史学専攻教授。徳川林政史研究所特任研究員、洋学史研究会副会長。主な著作：『解説 大槻磐溪編「金海奇観」と十九世紀の日本』『日本のインテリジェンス』『江戸将軍が見た地球』『竜馬の世界認識』『改訂増補版 幕末日本の情報活動』『予告されていたペリー来航と幕末情報戦争』『江戸の海外情報ネットワーク』『徳川慶喜—その人と時代』『江戸情報論』『江戸のナポレオン伝説』『近世日本の海外情報』など多数。



### 日時

#### 第 1 回 近世日本は「鎖国」だったのか

2016 年 11 月 17 日(木) 19:00~20:30 (開場 18:30)

#### 第 2 回 「開国」とは何か—ペリー来航絵巻から

2016 年 11 月 24 日(木) 19:00~20:30 (開場 18:30)

### 各回共通

- 会場：日比谷図書文化館 地下 1 階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：200 名/回(事前申込順、定員に達し次第締切)
- 参加費：1,000 円/回(千代田区民 500 円/回 ※住所が確認できるものをお持ちください。)
- 申込方法：来館(1 階受付)、電話(03-3502-3340)、E メール(college@hibiyal.jp) いずれかにて①講座名、②お名前(ふりがな)、③電話番号をご連絡ください。